

会 議 録

1 会議名

平成 29 年度第 7 回津有区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 活動団体との意見交換会での意見の整理について（公開）

(2) 自主的審議について（公開）

(3) 町内会長との意見交換会について（公開）

3 開催日時

平成 29 年 11 月 9 日（木）午後 6 時 30 分から午後 8 時 00 分まで

4 開催場所

ファームセンター 農事研修室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委 員：江平幸雄、太田政雄、塩坪貞雄（副会長）、清水昇一、中嶋博、服部香代子
古川昭作、保坂和彦、丸山常夫、宮越隆一、吉崎則夫（会長）、渡部稔

（欠席 2 人）

・事務局：中部まちづくりセンター 山田センター長、野口係長、田中主事

8 発言の内容（要旨）

【田中主事】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、成立を報告

【吉崎会長】

・挨拶

【田中主事】

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、会長が議長を務める

ことを報告

【吉崎会長】

- ・会議録の確認者：塩坪副会長に依頼

議題「1. 活動団体との意見交換での意見の整理について」事務局に説明を求める。

【田中主事】

- ・資料No.1により説明

【吉崎会長】

前回、初めて活動団体との意見交換会を行ったが、どうだったか意見を求める。

【宮越委員】

継続的に地域活動支援事業を利用している提案団体が多かったので、活動的で前向きな意見がでてきた。1年に1回くらいは、そういった団体の意見が聞けたらよいと思った。

【保坂委員】

初めての機会だったので良かったと思う。活動団体も税金を使って活動をしている意識を持っている感じがした。これで終わりではなく来年度も別の団体からも多く参加してもらえたらよいと思う。

【江平委員】

団体と話をする中で委員が感じきれていない部分の思いがあると思う。買った機械や備品を常時使っていない場合に共用できるという提案は、我々委員では思いつかなかった。

【吉崎会長】

備品に関しては、津有区全体で活用いただけたらよいと思う。

【中嶋委員】

津有地区地域づくり協議会の生活環境改善学習会の視察人数が少なかったので、来年は難しいことを参加者には負担をさせないでもらいたいとの意見がでた。だが、予算を使う以上は目的を達成できるような状態に持っていかなければいけないという話もした。参加者がいなければ成果もでないため、難しいところだと感じた。

【丸山委員】

下野田の町内会長が同じ班だったが、町内会館を建て替えたそうでトイレも洋式に変えたとのこと。昨今、各町内で催し物を行っても町内会館や公共施設のトイレが和

式のため、集まった人が家に用を足しに帰ってしまうという話を聞いたので、うちの町内会長にも今後各町内でも考えていかなければいけない問題として協議をした。

【吉崎会長】

次に、地域活動支援事業に反映できるようなことや変えなければいけないところに気付いた方は発言をお願いします。

【服部委員】

減額採択の話が出ていたが、次回からは何を優先してほしいかを決めてもらうという話は聞いている。提案書を出してもらうときやヒアリングのときに減額のことをきちんと説明すべきだと感じた。

備品の貸出の話したが、南部の方に北部にも貸出をお願いできるかという話をしたときは、いくらでも貸すという話だった。そういう共有化できるルール作りをしていくことは必要だと思う。

【吉崎会長】

それを行う際、舵取りは協議会でやったほうがよいのか、町内会長協議会のほうや津有地区地域づくり協議会でやってもらったほうがよいのか。

【服部委員】

スポーツクラブもそうだが、貸出の窓口があり、いつから何日間使いたいかの表がある。利用希望者が窓口に連絡して貸出するかたちになっている。同じ地区ならば携帯電話でもよいが、他の地区だと個人情報の問題もあり、その点が難しいのかなと思う。

協議会が舵取りするというよりも補助金をもらった提案団体がやりやすいやり方がよいのではないかと思う。

【古川委員】

南部と北部とお互い共有して使うということは、印象に残っている。共有する財産というかたちで使っていければ一番よいと思う。税金で購入したものなのでお互いの管理責任等が問われるので、そこら辺をきっちりしていかなければいけないと思う。

また、LEDのように予算の状況等で継続していくことが必要になってくる場合もあると思う。少しずつでも改善していくような継続事業は、当然あってもよいと思う。

【太田委員】

津有地区の町内会長協議会にもっと主体性を持っていただき、津有地区で共通する

ものは町内会長協議会でもっと力を発揮してやってもらったほうがよいと思う。地域協議会のことを知らない人がもの凄く多いのでその辺もPRが必要である。地域協議会自体も分からないし、地域活動支援事業のこともよく分からないという方も多く、物品の関係も税金で購入されていることが周知しきれていないので、どのように周知したらよいのか、考える必要がある。

【吉崎会長】

周知を図ってはいるが、なかなか難しい。私自身も地域協議会委員をやるまでは、ほとんど知らなかった。

【渡部委員】

備品を共有して使う意見がよいと思う。減額採択の場合も提案団体内部で調整できるようにという部分に関しては、優先順位をヒアリング等できちんと聞いておかないといけないと感じた。

【吉崎会長】

地域活動支援事業では減額採択の方法も含め、1月頃に来年度の方針を決めていくので、忘れないように決めていけたらよいと思う。活動団体との意見交換のなかで、他に何か気になったことがあれば、願います。

【塩坪副会長】

地域づくり協議会の生活環境改善の視察研修に附帯意見として付けたレポートの提出の影響もあり、参加者が26人とだいぶ減ったとあるが、これは順当だったのか。附帯意見を付けてもらいたくないというニュアンスだったのかどうか。

【宮腰委員】

開催日が9月15日だったので、日にち的なものもあったのではないかと思います。

【太田委員】

出席したのだが、話を聞いてみると行事が重なって出られなかったようである。

【塩坪副会長】

それならよいのだが、附帯意見を付けたからと言われて、協議会が悪いように思われると困る。

【中嶋委員】

今までは電話で申し込んで、管理人さんが順番に受け付けてくれたが、今回は代理人の申込みはだめで、本人のみの申込みという規制があった。それと、やはりレポー

トが少し問題になっていたようである。ただ、お金を出して改善していこうという立場の人から見れば「行ってよかった」だけいけないとは思う。また、レポートと稲刈りの時期と重なったような感じはする。

【太田委員】

去年は、申込み受付初日で終わったと聞いているが、今年は全然集まらなくて、何回も有線で放送していた。

去年は7月頃だったので、時期もちょっとよくなかったのと、行事と重なったと聞いている。

【宮越委員】

どちらにせよ公金を使っているので、それなりの負担も必要。ただの旅行では何のための地域活動支援事業か分からない。

【吉崎会長】

お二方の委員も仰るように、採択するとき記したが、税金を使ってやることなので、何か効果みたいなものを出す必要があると思って、附帯意見を付けた。来年度以降もこういうことをやっていく必要があるとは思う。しっかり成果を求めることは今後も必要だと思うので、そういうことを付記していきたいとは思う。また、採択方針の決定のときに、皆さんよろしく願います。

【服部委員】

申込みの方法もその時に話をしたほうがよい。

【宮腰委員】

去年はすぐにいっぱいになり、他の人から不満が出たということもあるので、難しいところである。

【服部委員】

例えば1人で電話して、5人分の申込みをしたりすれば、すぐにいっぱいになってしまう。

【太田委員】

参加費も去年は千円だったが、今年は三千円だったので、その影響も大きいと思う。

【宮越委員】

日にちも土日であれば、若い人の参加もあるかもしれないので、配慮も必要だと思う。

【吉崎会長】

活動団体の中で地域協議会の議事録をホームページで確認されている方もいらっしゃって、凄いと思った。

時間がきたので、活動団体との意見交換会の整理は終了する。「2. 自主的審議について」事務局に説明を求める。

【田中主事】

・資料No.2により説明

【吉崎会長】

事前に送付してあるが、聴いてみたい地域の声について発表願う。

【宮越委員】

野尻では小学1年生の女の子が3人いるが、他の町内の子ども会がどのように活動をしているのかを知りたい。

次に、後継者・空き家についてだが、空き家に関しては地主さんがいろいろ管理してもらっている。草が生えてきてどうにもならない場合は、私が管理している家に電話してお願いしたりしているが、他の町内はどうしているのか。

さらに、高齢化では、高齢者の事故の防止ということで免許を返上することが昨今言われているが、この辺では免許を返上した場合に公共交通機関がない。バスにしても1時間に1本だったりするので、その辺を皆さんはどのように思っているか。

【保坂委員】

少子化の子育て環境だが、私はそういう環境にいない世代なので、そういった課題を当事者から聞ける場があるとよい。保育園の子どもや小学校の子どもがいる子育て世代をPTAの会長、副会長等に協力してもらったりして、現状を知りたいと思う。保育の現場で待機児童等が都会のように津有区でも本当にいるのかどうか。私が知らない話がたくさんあるので、当事者をいかに呼んでくるかが重要である。

【吉崎会長】

他に少子化や子育て環境について聴きたいことはないか。

【江平委員】

少子化というと、どこの町内も男女にかかわらず独身者が多い。少子化ということは結婚していないからでもあるので、結婚はしたくてもできないのか、結婚したくないから1人でのいるのかを聴いてみたい。1人がよいというのならば生き方の自由だか

らよいが、結婚したくてもできないのならば、出会いの方策が必要であるはずである。出会いの問題であれば、我々も意見や考えを出し合うなり、当事者に聞くなり、何か方法があると思うので聴いてみたい。

【服部委員】

いつも私は親と同居し、働きながら子育てしたが、アパート住まいや親と同居していない家庭で子育てをしている場合は、どういう家族構成でどういうふうにして子育てしているのかを知りたい。今は放課後児童クラブや延長保育などあるが、どのように使って子育てしているのか、祖父母に預けているのかいろいろだとは思ふ。平成町もアパート等あるが、そういう人たちはどうしているのか。そういう中で1人でも手がいっぱいだとか、また子どもが欲しくてもできない人もいるので、聞き方は難しいかもしれない。

【吉崎会長】

次に「2. 人口増加・地域コミュニティについて」、地域の声を聴いてみたいことはあるか。

【太田委員】

人口増加については、ゆくゆくは働き口が少ないから他に出て行ってしまう。中山間地は何故人口が減るかといえば、働き口がないから平野部に出てくる。平野部に出て勤めていけば、近くに住みたいということになってくる。ただ、山間部だけでなく平野部も人口が減っている。何故かという、勤め口がないからということになってくる。町内会や敬老会は町内の行事をいろいろやりながら地域の人に楽しんでもらおうとしている。うちの町内は子どもが結構いっぱいいるが、町内のよいところを聞いてみると、小学校も中学校も近く、市内にもすぐ行けるという環境のようである。環境も大事だと思うし、地域でイベントをするなど何かアクションをしないと、その地域は衰退していくばかりといわれてもいる。

【丸山委員】

空き家に対する現状では、うちの町内には約5反くらいの敷地を持つ昔の大地主の土地に空き家があるのだが、町内として非常に困っている。野生の動物が頻繁に入っていて周りにも害がある。地主の方は住んでおらず、旦那さんが亡くなり、奥さんが1人で住んでいる。倒木があっても町内会長が電話をかけて今後の対策を話し合っている状態である。こういったものを解決するにはどうしたらよいのか。結局は町内の人

間だろうが本人だろうが、処分するのに莫大な費用が掛かるので、何もできない状態が現在も続いている。空き家でも小さい空き家と5反あるような空き家だと話の規模も違ってくる。地域の空き家の問題として、地域協議会で話すレベルではなく、上越市で考えていただくのが本来の姿ではないか。

【渡部委員】

地域コミュニティで稲田が参加できるようになって、どういうものを企画するかという部分がある。意外と津有区は、冬の運動会に参加してみると、皆さん結構参加しているのかなと思う。小さな子からお年寄りまで参加しているので良いと思うが、それを津有区全体でやれるのかどうかという部分も考えていったほうがよいと思う。

【中嶋委員】

私の町内は人口もわずかだが増加している。地区として運動会等でもよいので、どこに住んでいてどなたなのかという顔を合わせられる場があればよいと思う。最近は運動会といっても、皆さん出てくることは少ないが、津有区全体としての行事が何かあればよいと思う。

【吉崎会長】

次に高齢者関係のことで地域の人に聞いてみたいことはあるか。

【江平委員】

最近は高齢者が車で突っ込んだりする事故があるが、田舎に住んでいると免許がないと不便である。今年だけで65歳以上が運転する車が突っ込む事件が10件以上あったようである。私自身も明日は危ないかもしれないと思った。

【丸山委員】

高齢者は何歳から高齢者なのか。65歳以上は高齢者ならば、自動で止まる車にすればよい。

【江平委員】

タイヤ止めがあっても、一気に突っ込んでしまう。

【吉崎会長】

自動車の運転に関する声を聞いてみたいということか。

【太田委員】

老々介護が出てくる。私たちもやっている現状だが、これをどうしたらよいのか。今から地域ができることは何かということである。

【服部委員】

高齢者を対象とした「いきいきサロン」や地域でやっているサロンに行きたくても足がないから行けないという人がいる。迎えに行ってもあげたいが、万一事故をおこして何かあったら責任が取れないので、怖いから迎えに行ってもあげられないという声もある。サロンのように集まる場所があれば、高齢者は集まってこれるのかどうか。

【宮越委員】

現状は、ファームセンターと津有地区公民館でやっているが、参加者は10人ずつくらいでほとんど女性だという話である。今はJAが主体でやっているが、今後は津有地区に移行される。具体的な話は町内会長に話があった。

【塩坪副会長】

老人が老人を手伝うかたちなので、65歳以上の人が若いほうになるため、やらなければいけなくなる。本当は行政でやってもらわなければいけないことを地域に投げられても、強制的に役員が出るかたちになっている。地域にこれだけ市から投げられるとボランティアでやっている域ではなくなる。

【服部委員】

そういう場があれば行けるのかどうか。女性は多いが、男性をどうやって引っ張るのが問題である。男性で集まるのが嫌だと思える人もいるかもしれないので難しい。

【吉崎会長】

サロンに行かない理由が、内容の問題なのか、あるいは交通手段がないからなのかというところを聴いてみるということである。

【服部委員】

高齢者が高齢者のゴミ出しのボランティアをやっているとテレビでやっていたが、そういうことで困っている点がこの地区にはあるのかどうか。

【吉崎会長】

時間もきたので 自主的審議についてはここで終了するが、4つのキーワードから協議会委員で方針化させて、意見書につなげてていくかたちになっていくと思うので、皆さん認識いただきたい。

【宮腰委員】

その話は、初めて聞いた。

【吉崎会長】

これは、元々自主的審議の中に入っている話である。自主的審議とはいくつかのテーマに絞り、地域協議会の中で決めて活動していくかたちになるので、ご理解とご協力をお願いします。4年の任期の中で答えを出していく必要があるので、どこら辺できちんとテーマを決めていくかは、今後近いうちに決めていかなければいけない。

次に、「3. 町内会長との意見交換会について」事務局に説明を求める。

【田中主事】

・資料No.3により説明

【吉崎会長】

今の説明に質疑、意見を求める。

(発言なし)

地域活動支援事業の来年度の方針に関する意見交換、もう1つは地域の現状や課題に関する意見交換という大きなテーマになるが、そちらのテーマ設定の細かいところについては正副会長に一任していただけるか。

【保坂委員】

前回、活動団体との意見交換で、その時に出されたものを2ページにまとめてあるが、これもある意味よい資料のような気がする。町内会長さんたちは、活動団体はこんなことを考えているということを知らない方がたくさんいると思う。意見交換のときに5分程度でよいので、活動団体が頑張っている様子も伝えながら、活動団体の意見の説明があってもよいと思う。

【吉崎会長】

事務局から地域活動支援事業の意見交換の際に、説明は可能か。

【田中主事】

可能である。

【吉崎会長】

では、そのようなかたちでお願いします。内容については正副会長に一任願う。

次に、「4. その他」次回の開催日について事務局に説明を求める。

【田中主事】

・次回会議について説明

— 日程調整 —

【吉崎会長】

- ・次回の協議会：12月19日（火）午後6時30分から 津有地区公民館
他に連絡はあるか。

【田中主事】

- ・11月18日の雄志中学校生徒との意見交換についてお知らせ

【吉崎会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690（直通）

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。